



病院キャラクター 「カリヨンの樹」に住むロボットたち

埼玉
県立

小児医療センターだより



聖ヴァレンティヌスに想いを馳せて

副病院長 はまの 浜野 しんいちろう 晋一郎

新型コロナウイルス感染症が5類に移行して1年、医療体制は有事から平時に移行し新年度を迎えました。国は新たな感染症に備える体制を整えるとともに、医師の働き方改革を重点課題の一つとして診療報酬を改定しました。その一環で変更された宿日直不可とする新生児特定集中治療室管理料Iの施設基準は、総合周産期母子医療センターを有する当センターにとって青天の霹靂でした。本稿執筆時点では、岡病院長が先陣となり、この難課題を乗り越えようと院内調整に取り組まれている最中ですが、本稿が皆様のお手元に届く頃には一応の解決が得られていると信じております。

総合周産期母子医療センターの話題に続き、今年度はあと2つ“センター”の話題があります。まず1つは本紙3頁に紹介のとおり小児運動器センターが開設されました。さらにもう1つ、私にとっては念願の小児てんかんセンターが開設され、内科治療とともにてんかん外科治療が可能になりました(2頁)。神経科菊池科長が粉骨砕身の思いで取り組み、岡病院長の絶大なご支援、脳神経外科栗原科長のご助力があり結実しました。この小児てんかんセンターにはてんかん専門医が7名在籍し、国内小児病院のてんかん診療チームとして最大です。成人施設を含めてもトップ10に入る日本最大規模の陣容です。タイトルにある聖ヴァレンティヌス(聖バレンタイン)はバレンタインデーの由来となった聖人で、てんかんとも深い縁があります。古代ローマでは士気低下を恐れ兵士は婚姻禁止でした。それを憐れんだ聖ヴァレンティヌスは兵士達に結婚式を行い、そのために処刑されたことから愛をつなぐ日に名前が残されています。てんかんとつながりは、彼がてんかん患者に聖水を与え救護する施設を運営していたことで、てんかんの守護聖人とされています。彼の慈愛にあやかり、2015年に国際てんかん協会と国際抗てんかん連盟はバレンタインデー直近の毎年2月第2月曜日を“世界てんかんの日”と決めました。聖ヴァレンティヌスはこの小児てんかんセンターにとっても守護聖人といえるのです。

埼玉県立小児医療センターの理念は、“For the future, for the children ～こどもたちの未来は私たちの未来～”です。それに倣って小児てんかんセンターも理念、ならびに診療のモットーを掲げました。理念は“Everybody is different, Nobody is perfect”、診療のモットーは『こどもの数だけ答えがある』といたしました。最近数年間、複数のプロスポーツ選手、アイドルがてんかんであることを公表し、てんかんの理解も深まりつつあります。しかし、交友関係のみならず、てんかん告知後の内定取消等、残念ながら偏見は生き続いています。私達は内科的、外科的治療のみならず、心理・教育、社会的側面も含めて対応いたします。多様なてんかん患児を治療し、患児のみならず家族を支援し、てんかんの理解を社会全体に促していきたいと思っております。これからの埼玉県立小児医療センター 小児てんかんセンターをよろしくごお願い申し上げます。

埼玉県立小児医療センターだより 第29号 ご案内

- | | |
|-----------------------------|---------------------------|
| ○ 副病院長あいさつ……………1 | ○ コ・メディカル部門紹介 公認心理師……………5 |
| ○ 新設センター紹介 小児てんかんセンター……………2 | ○ セミナー・講演会等のご案内……………6 |
| ○ 新設センター紹介 小児運動器センター……………3 | ○ 医療機関の皆様へ 受診のご案内……………6 |
| ○ 看護部門紹介 9B病棟……………4 | ○ 病院へのアクセス……………6 |



新設センター紹介

小児てんかんセンター

(Pediatric Epilepsy Center : PEC)

センター長 はまの 浜野 しんいちろう 晋一郎 / 副センター長 きくち 菊池 けんじろう 健二郎



令和6年(2024年)4月、埼玉県立小児医療センターに小児てんかんセンターが誕生しました。これまでは小児てんかんに対して内科的治療が主体でしたが、このたびてんかん外科治療を実施できる体制が整ったことからセンター化されました。

てんかんの有病率は約1%とされており、小児科診療の中でも大変重要な疾患の一つです。さらに、てんかんという疾患への偏見、差別という社会的問題、それに伴う心の傷・スティグマもあります。

当センターでは複数の診療科や関係部門と連携し、「こどもとその家族」を中心に、医療面及び心理社会面から支援する包括的なてんかん診療を実施して参りたいと思います。

教育委員会 教育機関／保育施設 地域医療機関
 関連学会／患者家族会 療育センター／事業所 救急救命士
 保健所・保健センター 埼玉県移行期医療支援センター



SCMC小児てんかんセンター

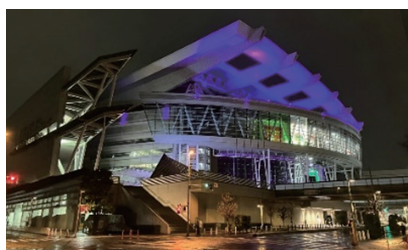


○院外向けの活動

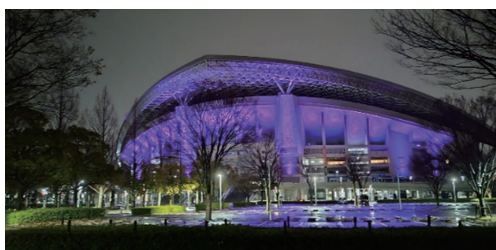
- ✓ 市民公開講座「てんかん教室」(毎年1回開催)
- ✓ SCMC小児神経セミナー(毎年1回開催)
- ✓ 埼玉県立小児医療センター 公式YouTubeチャンネル(てんかんについて)
- ✓ メディカルノート(てんかん、けいれん、結節性硬化症)
- ✓ パープルデー活動(毎年3月26日はてんかん啓発の日)



当センターホームページ
「小児てんかんセンター」



さいたまスーパーアリーナ



埼玉スタジアム2002



新設センター紹介

小児運動器センター

(Pediatric Motor Development Clinic: PMDC)

センター長

たいら 平良

かつあき 勝章



これから加速する少子高齢化社会に向けて小児運動器疾患をより詳細に「個別化の医療」を提供できるようにしました。四つの部門とそこでの蓄積されたデータを活用する「学術・分析部門」を設け、整形外科医師、理学療法士(PT)、作業療法士(OT)、地域の療育センターで協力し包括的な診療を目指します。

●組織図

- センター長：平良 勝章(サポート整形外科医師：根本 菜穂、及川 昇、町田 真理、大島 洋平)
- コメディカル統括：岡田 洋一OT、白子 淑江PT
- 四つの部門長

①脳性麻痺部門

松本 菜々恵PT

②スポーツ部門

金澤 郁恵PT

③血液・がん部門

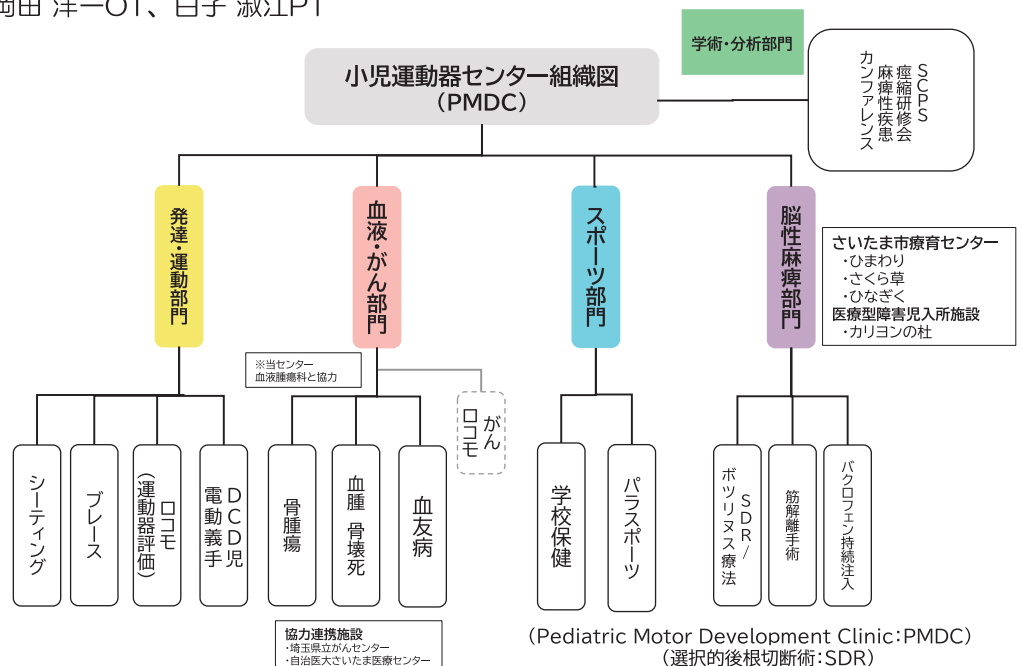
渡邊 聖奈PT

④発達・運動部門

碓井 愛PT

(学術・分析部門

阿部 広和PT)



●「運動器外来」の新設

従来の装具診外来をリニューアルして診察時間も2時間に拡大しました。

(毎週火曜日14時～16時 3階リハビリテーション室・発達診断室)

- 運動器を評価する「運動器ロコモ外来」
- 装具作成中心の「運動器ブレース外来」
- 車いす・バギー作成を中心とした「運動器シーティング外来」と細分化しました。



スタッフ一同





看護部門紹介

9 B 病棟



ふくち まきこ
師長 福地 麻貴子

9B病棟は、脳神経外科、形成外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、皮膚科、総合診療科の七つの診療科に対応する外科混合病棟です。口唇口蓋裂、水頭症、母斑・血管腫レーザー治療など、何らかの手術を必要とするお子さんが多く入院する病棟で、令和5年度(2023年度)の手術件数は、660件でした。体の成長に合わせて、段階的に複数回の手術を受けるお子さんもいれば、骨折や熱傷等により、突然、入院して手術や処置を受けるお子さんもあります。入院しているお子さんの年齢は、乳児から学童期まで幅広く、お子さんの年齢や発達段階に合わせ、手術が安全に受けられ、傷の痛みが少しでも緩和されるように看護をしています。また、手術を受けた後、ご家庭でのケアの継続が必要なお子さんやリハビリが必要なお子さんもあります。医師、理学療法士、退院支援看護師、ソーシャルワーカー等、多職種でカンファレンスを行い、お子さんの治療状況を共有しながら、日々看護を行っています。退院前には、自宅でのケア方法のご説明や必要に応じて練習もしていただき、安心して退院できるように努めています。加えて、病棟の看護師が1人、毎日外来の診察室も担当しているため、随時、退院後の自宅でのケアに関する困り事などのご相談にも対応しています。

さらに、当センターの新たな取組として、令和6年度(2024年4月)から、全国でも数少ない小児てんかんセンターが誕生しました。小児てんかんの内科的治療だけでなく、外科的治療が必要になったお子さんにも対応できる施設となりました。当病棟は、小児てんかん治療の中でも、脳神経外科治療が必要になったお子さんの受入れをする予定です。このような新たな治療を受けるお子さんやご家族に安心して治療を受けていただけるよう、スタッフ一丸となって準備を進めて参ります。



多職種カンファレンスを行い
お子さんの様子や治療を共有しています。



4月から4人の新人看護師を迎えました。
先輩の説明を真剣にメモを取りながら聞いて学んでいます。



検査や処置をするお部屋は、お子さんにとっては怖くて嫌なお部屋です。
少しでもお子さんが怖くないように飾り付けをしています。
動物のサーカスです。どんな動物がいるのかな？探してみよう！！



季節ごとに病棟の廊下の飾りが変わります。
5月はこどもの日 "みんな のびのびと大きくなーれ"



コ・メディカル部門紹介

公認心理師



保健発達部 副部長 **成田 有里**
なりた ゆり

保健発達部のコ・メディカルは、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、公認心理師・臨床心理士、視能訓練士で構成されています。公認心理師（常勤4人、非常勤4人）は、発達についての心配や様々な不安を持つお子さん・ご家族に対し、心理的な評価や相談を行っています。

心理支援では、赤ちゃんから高校卒業までのお子さんを対象としています。支援の内容としては、大きく分けて下記のようになります。

1. 心理療法・発達相談

精神科からの依頼によって、心配なことを抱えたお子さんに対して、個別で遊戯療法や面接などを行います。また、お子さんのご家族からの相談も、必要に応じて行います。相談例としては、やる気が出ない、イライラする、心配なことや嫌なことがあると体調が悪くなる、友達と遊べない、気になる癖や行動の問題があるなどです。

2. 心理検査・発達評価

発達や行動の特徴、性格などについて、当センター各科からの依頼によって、発達検査や知能検査、その他の心理検査を個別で行います。検査は、治療経過で必要な場合や、お子さんの様々な特徴の一側面を知る手がかりとして、お子さんの生活や教育に役立てていただくための一つの参考資料になります。

3. 多職種特別外来

アセスメント外来、DK外来、もぐもぐ外来、つくしんぼ外来において、多職種とともにお子さんの発達や心理的な問題についての評価、支援についての助言を行います。

4. その他

総合周産期母子医療センター、小児がん拠点病院としての役割も含め、入院されているお子さんやご家族への心理支援、グループ支援などを行います。

また、今年度新たに開設された小児てんかんセンターについても、心理評価や相談などの専門的な業務を行っていく予定です。



スタッフ一同

SNSぜひ登録ください！

YouTube



Instagram



X (旧Twitter)



facebook



病院からのお知らせ
随時更新していきます！

セミナー・講演会等のご案内

<医療関係者向け>

令和6年(2024年)

- 9月12日(木) 第156回小児疾患集談会(特別講演)
- 10月16日(水) 第1回成人期移行セミナー
- 10月31日(木) 感染免疫・アレルギー科診療連携カンファレンス
- 11月28日(木) 第157回小児疾患集談会

令和7年(2025年)

- 2月13日(木) 第10回地域連携懇談会
- 3月13日(木) 第158回小児疾患集談会(特別講演)

<一般の方向け>

令和6年(2024年)

- 11月9日(土) 県民のための医療セミナー(第35回記念 てんかん教室)

11月16日(土)

- 第5回移行期医療支援セミナー

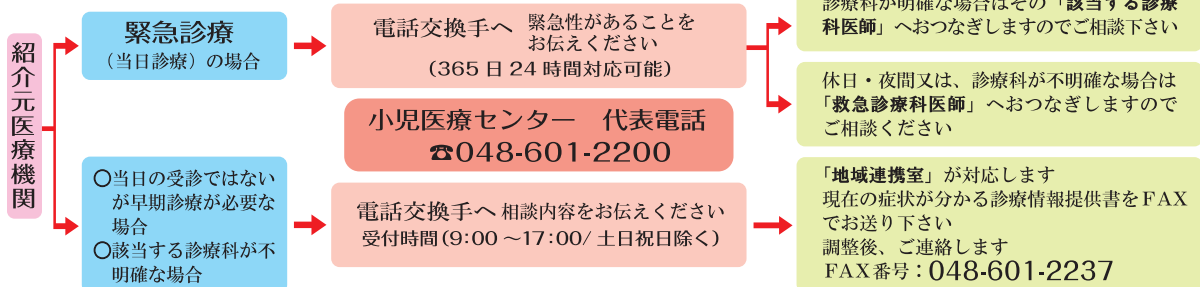
詳細は順次当センターホームページに掲載します。

医療機関の皆様へ 受診のご案内

①患者さん(ご家族)からの予約



②医療機関の先生からの予約・お問い合わせ



病院へのアクセス



■公共交通機関をご利用の方

- ・JR京浜東北線、宇都宮線、高崎線「さいたま新都心駅」から徒歩約5分
 - ・JR埼京線「北与野駅」から徒歩約6分
- ※歩行者用デッキを点線に沿ってお進みください。

■お車をご利用の方

- ・駐車場は有料になります。
 - ・機械式駐車場には車両のサイズの制限があります。
- ※ご利用の時間帯によっては、車両が集中し、入庫まで大変お時間がかかることが予想されます。できるだけ、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

埼玉県立小児医療センターだより第29号
令和6年(2024年)7月発行
編集・発行 埼玉県立小児医療センター



埼玉県立小児医療センター

〒330-8777 埼玉県さいたま市中央区新都心1番地2
Tel▷048-601-2200(代表) Fax▷048-601-2201
E-mail▷scmc@saitama-pho.jp
U R L▷https://www.saitama-pho.jp/scm-c/index.html



センター敷地内は全面禁煙となっておりますので、ご協力をお願いいたします。

埼玉県立小児医療センター